

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31 年 1 月16 日

公表:平成 31年 2月 20日

事業所名 COCOランド

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			○	・スペースに合わせた活動をしている ・間仕切り等を利用している。	・部屋の増築、リフォームなど検討していく。 ・グループ分け、活動の場所を変えることでスペースが確保出来るようにしていく。
	2	職員の配置数は適切である		○		・利用人数により、安全面に配慮しながら、職員の数を増やしたりしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○	・介助が必要な児には職員が側に付く様にしている	・会議等で話し合い手すり、スロープなど設置できるように検討していく。 ・トイレの改築など検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			・会議を毎月開催している。	・PDCAサイクルを活用し、話し合いの機会を増やすことで業務改善が行える様に努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				・アンケート調査を毎年行う事で保護者の意向等を把握し改善に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			○		・前は結果を保護者に配布している。今回からホームページで公表をしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		・第三者評価を行う事を検討し、業務改善に繋がるようにしていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・研修の機会がある時に勤務調整し、参加している	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・各部署で月1回会議をしているため、利用児の状況を把握している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			・アセスメントシートの改善を図っている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・会議で話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・新しい活動を取り入れている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			・会議で事前に決定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			・会議において、子どもの状況を把握し、話し合いをし作成している。	・作成した計画に合わせ、全職員が同じように子どもの状況を把握し統一した支援がおこなえるようにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		・職員の役割を理解して支援を行うようにしている	・活動内容の確認だけだったが、時間作り、内容や役割分担、個人の状況など詳しく打ち合わせを行うようにしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○			・職員、パートの終了時間が異なるため行えていない日もある。今後は毎日時間をとり振り返りを行えるように努めていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・月1会議でチームで話合うようにしている	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			・ガイドラインを読み込むようにしている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				・保護者から話を聞いたりしている。 また、学校から相談されることもあり、担当者会を開いたりしている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○				・移行連絡会に参加し情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				・地元の行事への参加。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				・児童担当者会に毎月参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				・送迎時に話すようにしている
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				・勉強会への参加。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				・個別面談や随時保護者からの相談を受け付けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				・保護者向け勉強会を開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				・毎月、おたよりを配布している
	35	個人情報に十分注意している	○				・個人情報に関する同意書を交わしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○				・餅つき ・羊の毛刈り ・作品展、発表会など

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				・該当者なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				・該当者なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			・ヒヤリハットはすぐに記入する様にし、会議で話し合い共有している	